みんなで支える あなたの子育て

毎年８月は神奈川県子ども・子育て支援推進条例に基づき、「かながわ子ども・子育て支援月間」とされ、子どもや子育て家庭を対象としたイベントや取組みが県内で数多く行われる。黒岩祐治神奈川県知事と全国共済神奈川県生活協同組合（全国共済）の上関康樹理事長が、子育て支援の姿勢やその思いについて話し合った。　※文中敬称略

中央は子育て応援パスポートイメージキャラクターの「金太郎」

黒岩 祐治 神奈川県知事／上関 康樹 全国共済理事長／（司会）角田 照司 神奈川新聞社企画編集部長

黒岩 祐治
神奈川県知事

子育てと向き合う700を超えるイベント

―「かながわ子ども・子育て支援月間」の取組みとは。

黒岩　少子高齢化が加速している今、このままでは、社会全体を支えるシステムを持続できなくなってしまうという危惧から、少子化問題に真剣に向き合おうという取組みです。

神奈川県では、子どもや子育て家庭に対して、社会的に支援する子育て推進条例を２００７年に施行しました。そして、「ながわぐるみで子ども達を守り育てたい」との願いを込め、毎年８月を「子ども・子育て支援月間」として、子どもや子育てをされている方、さらに子育てを応援したい方までを対象にした協力事業を募っています。

今年は地域団体や企業により７００を超えるイベントなどの協力事業が県内各地で開催されます。中・高校生が参加する子育て支援体験や、父と子どもの親子遊びを推進するイベントなどが開催されますので、お母さんだけではなく社会全体が子育てと向き合える機会になればと思っています。

貴重な体験と思い出 忘れられない夏に

―夏休みを過ごす子どもたちに望むことは。

黒岩　神奈川県には横浜のような大都市もあれば、海や山の自然、そして温泉や歴史的な観光資源もあり、まるで日本の縮図のようにたくさんの魅力があります。

ですから県内で行われるイベントも多種多様です。親子でサバイバルキャンプを楽しめる青少年親子体験キャンプや海の学校を体験できるマリン学校など自然に触れ合うイベントや、歴史に触れるイベント、さらに、最先端の科学技術を体験できる東芝科学館（川崎市）でのサイエンスフェスタや、日産車体（平塚市）の工場見学などもありますので、神奈川の自然・歴史・産業に思う存分触れて、忘れられない思い出をたくさんつくってほしいと思います。

―上関理事長の小さい頃の、夏休みの思い出は。

上関 康樹
全国共済理事長

上関　昔は子どもが夜出歩いてよかったのは夏休みに公園で行われる野外映画や縁日のときだけだったので、今でもその時のワクワクした記憶が強く残っています。ところが、最近は子どもが夜遅く出歩くことが日常的になっていたり、公園が危ない場所になっていたりすることが多く、疑問を感じています。

公園の活性化が子育て支援のひとつになると考えているので、地域の公園を会場に行われるお祭りの後援など、これからも積極的に行いたいと思います。

社会の支援を感じる 子育て応援パスポート

―子育て応援パスポートとは。

黒岩　子育てをするなら神奈川」と思える神奈川県を目指し、県内在住で妊娠中の方や小学生以下の子どもがいる家庭が対象となる、子育て支援を目的にした登録制サービスの登録証です。パスポートを協力店舗へ提示すると、割引や特典など優待サービスを受けることができます。

例えば、イオンでは毎月11日は子ども・ベビー衣料や玩具が5％引きになり、デニーズでは親子で食事されるとお子様ドリンクが無料になるサービスなどがあります。横浜市の子育て家庭応援事業「ハマハグ」と連携しているので、相互利用も可能です。

このようなサービスを受けることで子育て中の方に、地域ぐるみで応援されていることを実感していただきたいと思います。

―全国共済も「よこはまチャイルドライン」というお子さんに関係する活動を支援されていますが。

上関　これは子どもの電話相談で、いじめ問題に限らず、どんな悩みでも子どもの言葉を直接聞いて受け止めてくれる、フリーダイヤルでつながる所がチャイルドラインです。子どもは気持ちを受け止めてもらうことで次の一歩を踏み出すことができます。これは全国共済の願いでもあり、活動の支援を続けています。

―全国共済とはどのような制度ですか。

上関　形態は全国組織の生活協同組合で、「助けあい」という理念から非営利団体として事業を展開しています。平成25年4月現在、すべての共済事業の加入件数は67万件を超えました。

０歳から85歳までをいくつかの年齢層で区切っていますが、その年齢層の中では男女の差別なく一律掛金、一律保障が最大の特長です。一般の保険がタクシーだとすれば、共済はバスのようなもので、止まる停留所が決まってはいるけれど、同一の安い掛け金で保障が受けられる制度です。

とくに必要に迫られている方に対しては、すみやかにお支払いするように心掛けています。

すべてのお母さんにエールを送りたい

―最後に子育て中の方々へメッセージをお願いします。

黒岩　少子化が進む今、子どもを抱いているすべてのお母さんに心から敬意を表し「がんばれ！」とエールを送りたいと思います。

子育てをしているとその大変さに追い詰められることもありますが、行政・地域・住民は連携して、助けを求める家族をサポートし、社会全体で子育て家庭を守ろうとしています。それを感じることで気持ちにゆとりをつくっていただいて、子育ての楽しさ、やりがいをあらためてかみしめてほしいと思います。

県内では1年に8万人の赤ちゃんが8万通りの未来を持って生まれてきます。その子どもたちがそれぞれの夢をかなえ、輝ける環境をつくっていきたいと思います。

上関　身近なことで大切なのは「あいさつ」だと思います。近所の人と自然にあいさつができるような基本的な取組みが広まれば、それが地域全体のつながりになり、やがてはそれぞれの子育ての支援にもなると思います。

子育てにより親も一緒に成長し、子どもを通して地域とのつながりも広げることを期待しています。

８月は「かながわ子ども・子育て支援月間」です。詳細はこちら　子育て　かながわ　検索

企画・制作／神奈川新聞社クロスメディア営業局